

本資料は 8 月 6 日にスイスで発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。  
詳細な情報は下記より英語原文をご覧ください。

<https://bit.ly/34wPpFV>

## アデコ 事業の回復力と機敏性を発揮

### 堅調な粗利率と現金流動性を確保

[2020 年 8 月 6 日 スイス・チューリッヒ]

2020 年第 2 四半期サマリーとハイライト

- 報告ベースでの既存事業売上高<sup>1</sup>は前年同期比 29%減、営業日数調整後の既存事業売上高は、COVID-19 の拡大ともなうロックダウンが広がった影響により、前年同期比 28%減
- 売上高は当四半期が進むにつれて改善し、6 月の営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 26%減、7 月はさらに漸進的な改善を見せる
- 粗利率は回復力があり、強固かつバランスのとれた事業ポートフォリオと Lee Hecht Harrison のキャリア移行支援事業、そして確実なプライシングが寄与したことによって、前年同期比 20bps 減の 18.8%となり、既存事業の粗利率は前年同期比 10bps 減となった
- アジャイルなコスト管理が寄与し、売上高の急落にも関わらず一時的要因を除く<sup>2</sup>EBITA<sup>3</sup>利益率は 1.8%となった
- 現金流動性とバランスシートは強固で、キャッシュコンバージョンは 145%、一時的要因を除く EBITDA 純有利子負債倍率は 0.6x
- アデコグループの戦略的優先事項である「GrowTogether」プログラム、IT、「Ventures」への投資を継続

アデコグループ CEO のアラン・ドゥアズは次のようにコメントしています。

「COVID-19 に関連した公衆衛生と経済の危機は第 2 四半期中に激化し、非常に厳しい市場環境を作り出しました。アデコグループは、従業員やアソシエイトの健康と安全を確保し、顧客をサポートするために、迅速かつ積極的に対応しました。

このような課題に直面しても、当社の事業は回復力を発揮し、フランス、イタリア、スペイン、日本を含む多くの主要国で市場をリードしました。上半期を通して当グループは、売上高が大幅に減少したにもかかわらず、堅調な粗利益率を維持しました。これは、当社の規律あるコスト管理と、近年構築してきたバランスのとれたポートフォリオを証明しています。当四半期のキャッシュフローも好調でした。

COVID-19 による危機の短期的な影響を緩和しつつも、「Perform, Transform, Innovate」戦略にしっかりとフォーカスしています。先般導入した統合フロントオフィスシステム (InFO) は、日本での成長を後押しし、当四半期にはスペインとフランスでも継続的に展開しました。また、リモートワークに適応するために、「Perform」の方法論をデジタル化しました。

ロックダウンの緩和と共に改善の兆しが見られ始め、4 月に底を打って以降 10 万人近くのアソシエイトの職場復帰を支援してきました。ただ、不確実性の高さから、回復は緩やかで不安定なものになる可能性があります。

この歴史的な危機の中で当社を信頼してくださった顧客の皆様にご心から感謝するとともに、非常に困難な状況の中で揺るぎない献身とたゆまぬ努力を続けている当社の従業員とアソシエイトに感謝いたします。」



\*1：既存事業売上高とは米国会計基準以外の基準で、為替変動、M&A、事業部売却の影響を除く

\*2：2020年度第2四半期のEBITAは、一時的要因2500万ユーロを含む；2019年度第2四半期のEBITAは、一時的要因2400万ユーロを含む

\*3：EBITAは米国会計基準以外の基準で、償却前営業利益、のれん、および無形固定資産の減損を含む

### <主な数値>

#### 2020年度第2四半期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2020年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	4,181	5,923	-29%	-28% <sup>4</sup>
売上総利益	786	1,128	-30%	-28%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	75	265	-72%	-70%
EBITA 利益	50	241	-79%	-78%
当期純利益	21	159	-87%	
希釈 EPS (ユーロ)	0.13	0.98	n.m.	
粗利率	18.8%	19.0%	(20)bps	(10)bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	1.8%	4.5%	(270)bps	(250)bps
EBITA 利益率	1.2%	4.1%	(290)bps	(270)bps

#### 2020年度第2四半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2020年度 第2四半期	2019年度 第2四半期
利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー <sup>5</sup> (FCFBIT)	470	194
フリー・キャッシュフロー (FCF)	311	115
純有利子負債 <sup>6</sup>	519	1,381
未払い日数	54	52
キャッシュコンバージョン <sup>7</sup>	145%	84%
EBITDA への純有利子負債 <sup>8</sup>	0.6x	1.2x

\*4：2020年度第2四半期の既存事業の売上高の成長は前年同期比28%減、または営業日数調整後でも28%減。2020年度上半期の既存事業の売上高の成長は前年同期比18%減、または営業日数調整後で19%減。

\*5：フリー・キャッシュフローは米国会計基準ではない尺度で、営業活動からのキャッシュフローから設備投資を控除したもの

\*6：純有利子負債は米国会計基準以外の基準で、短期および長期の借入金から現金、現金同等物、および短期投資を控除したもの

\*7：キャッシュコンバージョンは米国会計基準以外の基準で、直近4四半期のFCFBITを一時的要因を除いた直近4四半期のEBITAで割ったものを四捨五入して計算

\*8：EBITDAへの純有利子負債は米国会計基準以外の基準で、期末時点での純有利子負債を一時的要因と減価償却費を除いた直近4四半期のEBITAで割ったもの



THE ADECCO GROUP

## 2020 年度第 2 四半期の日本の状況

2020 年度第 2 四半期の日本での売上高は 6% 増、または営業日数調整後で 5% 増の 4 億 100 万ユーロで、プロフェッショナル・スタッフィング事業とソリューション事業が引き続き成長しました。人財紹介事業の売上高は前年同期比 6% 減となりました。EBITA は 3700 万ユーロ、一時的要因を除く EBITA 利益率は、統合フロントオフィスシステム (InFO) の導入による生産性の向上とプライシングの寄与、そして実稼働日数の増加により、前年同期比 150bps 増の 9.2% となりました。

### 【本件に関するお問い合わせ先】

アデコ株式会社 広報部

Tel. 050-2000-7024